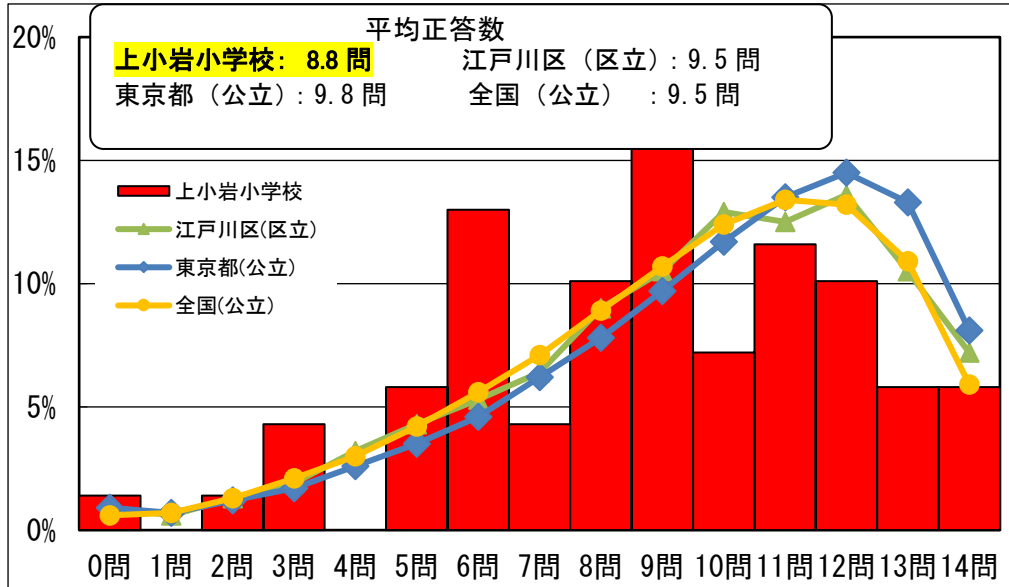


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 上小岩小学校

正答数分布



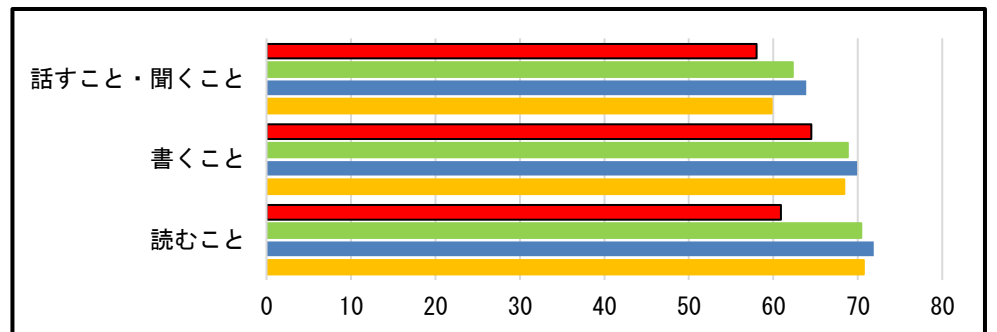
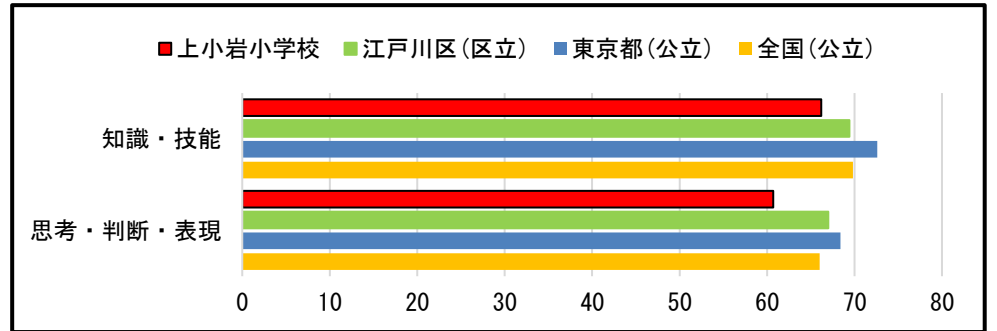
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
上小岩小学校	21.7	18.8	28.9	30.2
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

上小岩小学校	63%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	7ポイント

%

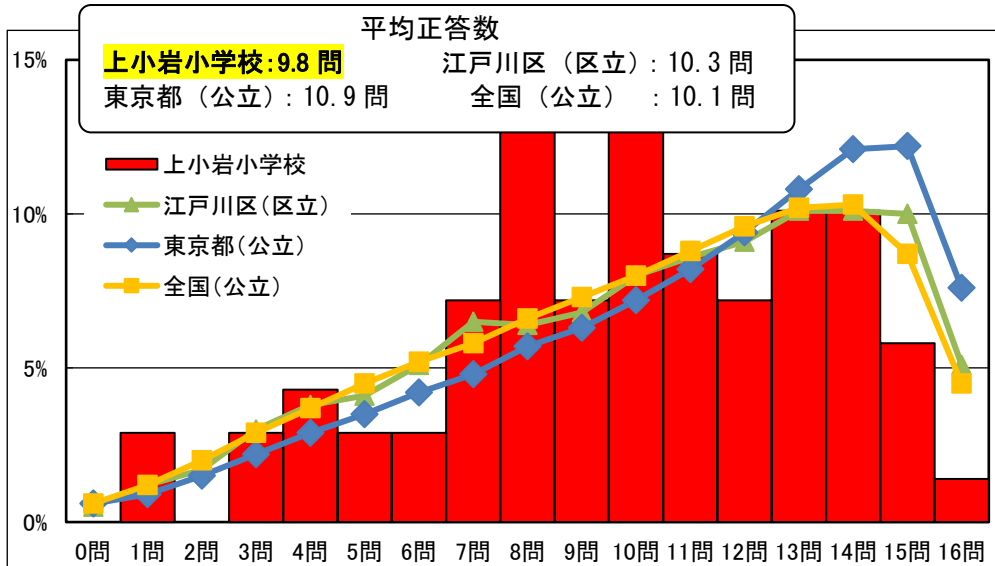
【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率で比べると、都の正答率68%に対し、本校は63%と7%も下回る結果となった。四分位で見ると、AB層が40.5%と半数以下で、D層の割合が30.2%と最も多く、漢字の習熟を含めた基礎基本となる学力の定着を図る必要がある。

領域ごとに見ると、「読むこと」が60.9%と都の平均を10%以上も下回る結果となった。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」についても都の平均を下回っている。改善策として、まずは「読むこと」の基礎となる音読で語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読むことを低学年時から確実にを行い、また、叙述をもとに感想を伝え合ったりする活動を全学年で取り入れていく。

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 上小岩小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
上小岩小学校	17.3	17.3	41.9	23.1
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

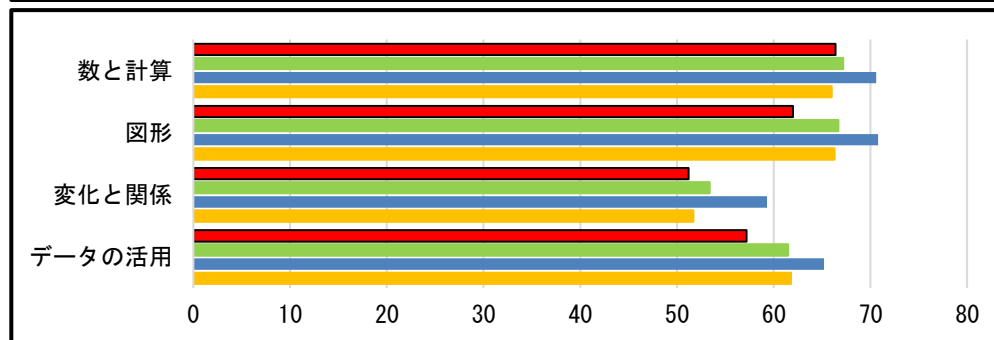
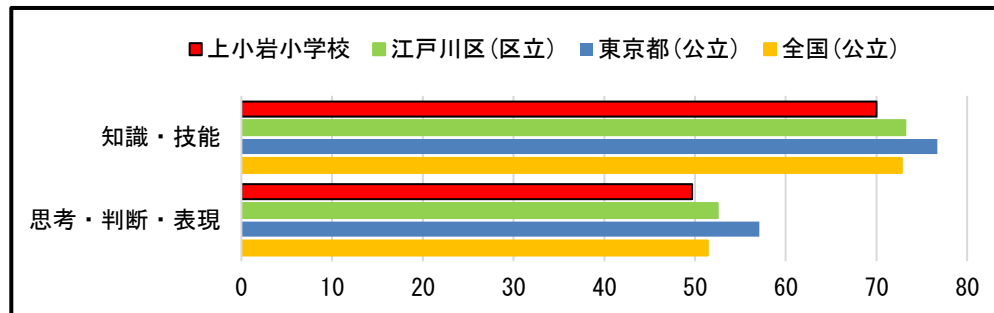
【平均正答率の差】

上小岩小学校	61%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	7ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率で比較すると、都の68%に対し、本校の正答率は61%と7%も下回る結果となった。四分位で見るとAB層が34.6%であるのに対し、CD層が65%と下位層の割合が多いため、四則計算の基礎的な学力を定着させCD層をBC層へと引き上げていくことが肝要である。

領域ごとに見ると、図形、変化と関係、データの活用は、すべて都の平均正答率と比べ大きく下回っている。授業の中では、具体物を活用したり、生活経験と関連付けて指導を行ったりするなど、全学年で児童が主体的に学ぶ姿勢を育てることが急務である。